

9119号台風によるリンゴ園の被害実態

研究のねらい

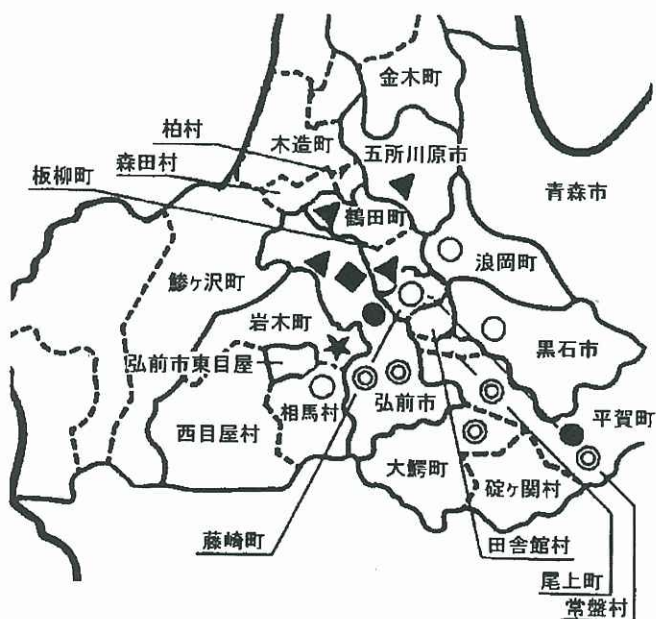
9119号台風によって被害を受けたリンゴ園の状況を調査解析し、防止対策確立の資料とする。

研究の成果

被害が多かった園地は、強風が直接吹き寄せたり、山を吹き越して斜面を下る時に吹き当たった台地やその周辺の起伏地形及び山間部の傾斜地にある普通台園や山を吹き越して吹き下った強風を正面から受けた平坦地にあるわい化園であった。

落果率は、普通台園及びわい化園とも地域による差が大きかったが、その平均は75.0～75.6%と非常に高かった。また、わい化園では普通台園に比べて強風による樹の倒伏、折損の被害が多く、特に、樹高が高く、樹冠上部の大きい、重心位置が高い樹で被害が多かった。

防風施設の被害は設置後10年以上経過して老朽化したものに多かった。わい化園での支柱設置方法では、十字状に架線したトレリス方式で倒伏被害が少なかった。



第1図 普通台園における地域別落果率

注) ● : 93.2~94.1%, ◎ : 84.4~89.1%

○ : 76.7~82.6%, ★ : 75.0%

■ : 65.3%, ▲ : 42.6~54.9%



被災したリンゴ園



倒壊したネット式防風しょう

発表資料

東北農業試験研究推進会議・北陸農業試験研究推進会議（1996）．落葉果樹の台風被害対策技術の確立．地域重要新技術開発促進事業研究成果 No.25.